

# 原発審査を効率的に

# 自民党が提言検討

自民党の原子力規制に関する特別委員会（委員長・鈴木淳司衆院議員）が「再稼働を果たした炉は10基にとどまる」「求められるのは、規制の『最適化』などとして、原子力規制に関して審査の『効率的実施』を求める提言案を検討していることが分かりました。本紙は自民党の委員会がまとめた「原子力安全規制・原子力防災の充実・強化等に関する提言 中間報告（案）」を入手しました。

（「原発」取材班）

## 「中間報告（案）」本紙入手

自民党の特別委員会がまとめた提言の中間報告（案）。審査による長期の運転停止は「リスクを生む懸念がある」などと書かれています

提言案は10項目。効率的な規制の徹底の項目では、原発の審査を行う原子力規制委員会に対し、「厳格な審査のみに固執し、長期にわたり運転を停止させることは、かえって安全上のリスクを生む懸念がある」などと持論を展開。「規制活動の効率性が重要であることを認識し」「規制活動にあたること」を求めています。さら

に、「安全規制の執行は、運転を止めるものとなつてはならず」と主張し、審査会を前段階に戻つてやり直すなど「事業者に大きな負担を求めることがないよう、留意すること」を求めています。特に審査が「遅延している」として「審査の迅速化の工夫」を要求し、長期化の理由を明確化するなどの具体的な対応を掲げています。

## 「長期の運転停止はリスク」

に対し、原子力に関わる関係者との意見交換や、福島第1原発事故以降に導入されたバックフィット制度（既存施設の規制適合要求）の適用について「運転停止を求めることが、かえって安全性向上を阻害する可能性がある」などとして、「適切な対応を図る」ことを要求しています。

他の項目では規制委

## 審査もっと緩めたいのか

提言案について井野博満・東京大学名誉教授は「現在でも規制委の審査は、とても厳格なものである」というものではない。老朽原発の運転延長の審査などでは、自ら元データを調べることもなく事業者の結論をうけ入れている。自民党は審査を簡略化してさらに緩くしようと画策している。再稼働を進めたいという思いがにじみ出ている」と指摘し、福島教訓がどうとん後ろにやられてしまっているかと思われ、今回の提言はそれぞれを助長させる内容で全く小野有五・北海道大学名誉教授は「昨年言います。」